



## 自然と暮らす「奥飛騨砂防の挑戦」展

撮影中田聡一郎



急峻な北アルプス。焼岳やアカダナ山をはじめとする活火山から川に沿って作られた街並み集落。飛騨においては大正9年という日本で最も早い時期に国の直轄による砂防が幕を開けました。飛騨は100年を超える砂防との歩みの中で、絶えず自然との共存を探り実現してきました。飛騨はまさに砂防と共にあります。

主催 飛騨市砂防インフラ PR 事業実行委員会

入場無料

日程 11月16日(木) 9時~15時

会場 砂防会館別館 3F 会議室「穂高」 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4

問い合わせ先 飛騨市砂防インフラ PR 事業実行委員会 事務局 (電話: 0577-73-3936)

## 会長挨拶

森林面積が93%を占める飛騨市は、土砂災害特別警戒区域が682カ所にのぼり、約100年前から現在に至るまで市内各所で国や県による砂防施設の整備が進められてきました。近年多発する集中豪雨のたびに砂防施設の重要性を強く感じているところですが、砂防事業には非常に多くの費用と年を要し、主に人目に付きにくい山中に設置されることから注目される機会はあまり多くありません。そこで飛騨市出身で日本唯一の「砂防写真家」として知られる中田聡一郎様及び国土交通省 神通川水系砂防事務所様のご協力をいただき、三者連携による自然と暮らす「奥飛騨砂防の挑戦」と題した砂防写真展を開催する運びとなりました。人々の暮らしを守る砂防の重要性をご理解いただき、その魅力を存分に感じていただければ幸いです。



会長 飛騨市長 都竹 淳也

## 神通川・高原川流域の 安全と暮らしを守る

国土交通省北陸地方整備局神通川水系砂防事務所では、土砂流出対策のほか、流木対策、大規模土砂災害・深層崩壊対策、さらに火山噴火減災対策など、多方面に渡る事業を行っており、その一部をご紹介します。

## 自然と暮らす「奥飛騨砂防の挑戦」展

写真家 中田聡一郎

飛騨の美しくも厳しい自然の中で、砂防は自然と暮らしを結んで来ました。

写真展では自然の写真を中心に鋼製砂防堰堤の迫力ある姿を展示いたします。

また香り豊かな砂防珈琲を販売。

大型プリントの展示も予定しております。

一杯のコーヒーが砂防を伝え暮らしを守ります



一般社団法人日本砂防コーヒー協会

砂防珈琲の売上金の一部は『一般社団法人日本砂防コーヒー協会』を通して砂防の撮影、広報活動に役立てられます

### 【会場】

砂防会館別館（シェーンバッハ・サボ側）3F  
会議室「穂高」

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4

※駐車場はございませんので公共交通機関をご利用下さい。

●地下鉄（有楽町線／半蔵門線／南北線）

「永田町」駅4番出口より徒歩1分

●地下鉄（銀座／丸ノ内線）

「赤坂見附」駅より徒歩8分

